

令和2年度 第1回大豆島公民館運営審議会会議録

- 1 日 時 令和2年6月24日(水) 午後1時30分から3時まで
- 2 場 所 大豆島公民館 多目的ホール
- 3 出席者 臼井 和幸 (大豆島地区住民自治協議会会長)
久保田 学 (市立大豆島小学校校長)
久保田 宗雄 (大豆島公民館副館長)
正村 寿満子 (公募委員)
西沢 節 (学識経験者)
西澤 真利子 (大豆島地区更生保護女性会会長)
広瀬 一雄 (大豆島地区民生委員児童委員協議会会長)
山崎 ひろ子 (大豆島地区赤十字奉仕団委員長)
高池 一昭 (市立大豆島公民館館長)
白石 洋一 (市立大豆島公民館係長)
(小池委員は欠席)

4 審議事項

- (1) 令和2年度大豆島公民館事業計画について
(2) その他

5 審議内容

長野市立公民館条例第15条の規定により、委員の過半数の出席を満たしており審議会は成立していることを報告して開会した。

- (1) 令和2年度大豆島公民館事業計画について

事務局 (令和2年度大豆島公民館事業計画について事務局から説明)

委員 図書室について、新しい本と古い本の入れ替えは行っているのか。幼児も保護者と一緒に利用していてよいと思う。

事務局 月1回くらいの頻度で新刊本が南部図書館から配布される。読みたい本のリクエストも可能である。

委員 古い本は定期的に除籍している。本は借りて自宅で読むこともできるし、図書室のスペースで読むこともできるので、多くの人に利用してほしい。

委員 私事であるが、自宅にある不要になった本を業者に引き取ってもらい、その売上金を受刑者矯正の支援金に貢献することができた。

事務局 公民館の憩いのスペースに住民自治協議会が管理する図書コーナーがある。こちらは、地域の人が不要になった本を持ち込むことができ、欲しい本があれば自由に持ち帰ることもできる。本の有効利用につながっている。

委員 「まめっ子広場」や「まめっ子サロン」など、子どもが交流できる講座を企

画してもらいたいと思う。

新型コロナウイルスによる休校中に、オンラインを通して定期的に踊りを踊ることで児童同士がつながるという実践を行った学校もある。「ご当地健康体操100選 大豆島甚句体操」は、児童も地域の人と一緒に踊れる「絆」につながる取り組みだと思う。学校でも活用させてもらいたい。

事務局 甚句体操の動きは単純なので、大豆島甚句を踊ったことがあればすぐに覚えられる。昨年は市民運動会の準備体操として活用する予定だったが、台風災害で中止になってしまった。甚句体操は児童と高齢者との交流にも使える素材だと思う。様々な場面で活用してもらえればうれしい。

委員 「大豆島甚句体操」を地域に広めるため、住民自治協議会や小学校にもご協力をお願いしたい。

(2) その他

事務局 (これまでの運営審議会で報告した「大豆島公民館のあり方検討委員会、交流センターのモデル試行、成人式検討会議」について事務局から改めて報告。)

委員 公民館が交流センターになると、施設の活用が拡大され、住民活動が活発になり、地域の活性化や福祉の増進につながるということが期待できるというが、業務が増えて今の職員体制では負担が大きくなるのではないかと。市として人件費を増やすなどの予算措置はしてくれるのか。

事務局 昨年度から試行的に交流センターに移行した公民館では、とくに職員は増員されていない。市では3年間のモデル試行で課題の洗い出しや情報収集をすることを言っているので、増員が必要と判断されれば予算措置される可能性はあるが、現時点で市からモデル試行の中間報告はないので、公民館では交流センターの実情は把握していない。

委員 大豆島地区にある健康レクリエーション施設をよく利用させてもらっている。以前は、地元農家で作った野菜を販売していて、施設利用者と交流ができていたが、県外の指定管理者に代わってからは物販がなくなってしまい残念に思う。新しい施設でもあるので地域でも盛り上げていけたらよいと思う。

委員 自分も借りた畑で野菜を作って販売したことがあるが、地元農家と施設利用者との交流の場になっていたので再開してほしいと思う。耕作放棄地の解消にもなるのでは。

事務局 地元農家と施設利用者との交流の場が生まれるのはよいことだと思うが、当該施設の物販の再開について、公民館としては何かを言う立場にない。